

国語科学習指導案

日 時 平成17年9月29日(木)5校時
学 級 2年(男子7名 女子3名 計10名)
授業者 高橋 宏行

1 単元名(教材名) 「四 古典を楽しむ(思いをつづる 「枕草子・徒然草」から)」

2 単元について

(1) 教材観

中学校の古典学習は、古文を読むことに慣れ、古典文学に親しませることが主眼である。1学年では、古典の入門的な学習をしており、2学年では、より本格的な古典文学に触れさせる。

「古典を楽しむ」単元は、平家物語から「扇の的」、枕草子・徒然草から「思いをつづる」からなる。中学生は、2学年の2学期になると落ち着きが出てきて、外に向かっていく心が自己の内面へも向き始める。この時期に、このような価値ある古典に触れて、古人の生き方やものの見方・考え方に思いを巡らすことは意義のある学習と言える。

本教材における基礎的・基本的な内容は、原文を繰り返し朗読し、読み慣れること、仮名遣い、語形、助詞の省略、対句、七五調など、古典の文章の特徴に慣れること、作者のものの見方や感じ方をとらえ、感想をもてること等があげられる。

徒然草の第11段「神無月のころ」は、平安時代から受け継がれてきた情緒のあり方が主題になっており、作者の気持ちの動きが率直に描かれている。

作者、吉田兼好は、山奥の庵でひっそりと風雅に暮らしているらしい人の様子に、「かくてもあられけるよ」と感動するが、たわわに実ったみかんの木に厳しい囲いがしてあるのを見て、人間(庵の主)の物欲にがっかりする。しかし、最後の部分が「この囲いなからましかば」ではなく、「この木なからましかば」である点を考えると、囲いをした庵の主を単に批判するのではなく、実った木を前に、囲わずにはいられない人間の心理を洞察しているとも考えられる。物欲のあさましさが前面に出てはいるが、ある意味では人間に対する肯定的な視点に立っているとも言えるので、作者の心理の変化を追うことにより、より深い「あはれ」の意味をつかませるのにより教材である。

また、枕草子の冒頭文には、筆者、清少納言の現代にも通じる季節感が表され、各々の季節感と対比した読み取らせ方や生徒一人一人の感じ方を深めるものとして恰好の教材と言える。

(2) 生徒観

1学年の時、竹取物語を学習した際、日本の昔話の多くが古典として、現代に読み継がれていることに、多数の生徒が驚いていたようであった。昔から知っている話を原文で読む新鮮さとそのストーリーに、新たな感じ方を示した。しかし、歴史的仮名遣いにとまどっている生徒もあり、読み慣れたり、古典の文章の特徴に慣れること自

体は、まだ習熟の域に達していない。また、「作者のものの見方や感じ方をとらえること」については、竹取物語の中にあらわれる登場人物のものの見方や考え方という域で考えさせたが、現代人と比較してもそれは、似ているので容易にとらえさせることができた。

いずれにしても、古典とはいえ、見聞きしたことのある内容・話しという点で、身近に感じた生徒が多かった。

2 学年では、さらに、作者のものの感じ方・見方の書き表された古典文章に触れさせ、古典への興味・関心を育てたい。

本学級の生徒は、落ち着いており、学習に対しても、真面目に取り組む。女子が少なく、男子の方が積極的だという点に特徴がある。音読にしても、男子の声の方がよく目立つ。女子にも発言の機会を与え、活気を作りたい。

(3) 指導観

教材の特性、また、生徒の実態をふまえ、古典の基礎的な文章として、平家物語の「扇的」、枕草子、徒然草を読み慣れることを主眼にする。そのため、語句を丁寧に扱い、内容をしっかりとらえさせたい。「枕草子」、「徒然草」は、古典の随筆文学の最高峰に位置しており、これらの作品に触れること自体、生涯学習の観点からも意義があることである。

本教材は、ともに読みやすく、わかりやすい内容で、古典を楽しむにふさわしいものと言える。内容の取り扱いについては、生徒たちの生活に引き寄せて、想像させるように学習を展開したい。四季の自然や物欲について、生徒の経験を思い出させ、過去と現代を結ぶ形で教材に触れさせたい。音読・朗読を重視し、また、作品の冒頭部分の文章に触れること、および口絵や挿絵の活用も、意図していきたい。

「枕草子」では、現代にも通じる日本人の季節感、宮廷に生きる作者の生活と心情を、「徒然草」では、物欲の悲しさ、作者の人間を見る目の幅広さ・自由さ・深さを考えさせたい。

そして、古典の作者たちの、個性的かつ鋭いものの感じ方・とらえ方をクローズアップさせながら、生徒たちの感性を揺さぶりたい。

3 単元の指導目標

[関心・意欲・態度]

- ・ 古典の中に描かれている古人の風俗、習慣、生活、考え方、感じ方をとらえ、時代を超えても変わらない人間の普遍的なものについて感じ取ろうとする。

[読むこと]

- ・ 歴史的仮名遣いや文語文に特有の言葉、語形を学習し、古文のリズムを生かして朗読できる。
- ・ 本文の口語訳や注釈、古語の意味の学習を通して、描かれている情景や作者の考え方・感じ方を読み取らせる。また、自分の考え方・感じ方と相通じる点や異なる点について文章にまとめることができる。

[言語事項]

- ・ 歴史的仮名遣いや文語文に特有の言葉、語形を理解する。

4 指導計画と評価規準

単元	教材	学習内容	時	関心・意欲・態度	読む	言語事項
古典を楽しむ	思いをつづる	作者のものの見方や感じ方を、とらえること。 「枕草子」	2	自分の現在の生活の中で共感したり、人間の生き方として今も変わらない普遍的なものに気付いたりして、	先人のものの見方・考え方・感じ方を理解している。 古文を読む上での基礎知識や表現方法、語の意味、独特の言い回し、仮名遣いなどを理解して音読している。 朗読を通して、古文のリズムや文体をいかして音読している。	古語の読み方、意味を理解し、その語彙をふやしている。 古文特有の漢語の意味や用法に注意している。
		作者のものの見方や感じ方を、とらえること。 「徒然草」	2 / 2 本 時	古典を身近なものとして感じ取ろうとしている。 古典をいろいろな学習形態で楽しく学び合い、その結果、進んで古典を読もうとしている。		

5 本時について

(1) 目標

人間のあり方・生き方に対する筆者の考えをとらえることができる。

(2) 具体的評価規準

	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	「努力を要する」と判断される生徒への支援
関心・意欲・態度	自分の現在の生活の中で共感したり、人間の生き方として今も変わらない普遍的なものに気付いき、古典を身近なものとして感じ取っている。	筆者のものの見方・考え方・感じ方を理解し、現在の生活の中で共感することにより、古典を身近なものとして感じ取っている。	筆者のものの見方・考え方・感じ方を表している語句や表現を注意させる。
読む	徒然草を読み、そこに表れている筆者のものの見方や感じ方を、自分の考えと比較してとらえている。古文のもつリズムや文体に親しみかつ楽しんで朗読している。	徒然草を読み、そこに表れている筆者のものの見方や感じ方を、とらえている。古文のもつリズムに合わせて朗読している。	古文を解釈する上での語の意味、仮名遣いなどを注意しながら音読させる。
言語事項	古文を読む上での基礎知識や表現方法、語の意味、独特の言い回し、仮名遣いなどに習熟している。	古文を読む上での基礎知識や表現方法、語の意味、独特の言い回し、仮名遣いなどを理解している。	古語や漢語が正しく読めるように指示する。

(3) 指導の構想

この文章から作者の「人間のあり方・生き方に対する考え」をとらえさせる課題を提示しながら、前時までに学習した「あはれ」の意味を想起させ、理解につなげる。また、生徒はこの作者の考えを理解するならば、それに対する自分なりの感想を持つはずである。それを終末の段階の「振り返り」ということで、発表させ、それぞれの定着度を確認したい。

展開では、最初、庵の様子を確認し、これを「あはれに見る」筆者の心情を次の囲みの図式でとらえさせる。

こんな暮らしを「あはれ」にみる = 庵の主の人となり「あはれ」にみる

暮らしに、しみじみとしたものを感じる = 主の人となりに、しみじみとしたものを感じる
 (この暮らしは「いい」) (この主の人となりは「いい」)

作者の感動(しみじみとしたもの = 作者の価値観 <心ひかれる>)

「ことさめ」た理由を、次のように考えさせて、作者の価値観・考えに迫らせる。

「ことさめ」た理由 = 「囲い」をした主の人間性
 = 主の物欲・独占欲・敵がい心

こんな人だったのか? 暮らしからすると想定外
 感動(あはれに見ていた心情) 興ざめ

筆者の心ひかれる人間のあり方・生き方を「ものごとにとらわれない、こころ安らかな生活(人)」をとらえ、指導にあたる。

(4) 展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点(・)教師の支援()評価の観点()
導入 10分	1 前時学習内容の復習	1 前時の学習内容を想起する。 読みの確認・口語訳	<ul style="list-style-type: none"> 指名する。 下位の生徒にも確認させる。 きちんと読ませる。
	2 学習課題の設定	2 本時の課題を把握する。	
吉田兼好の「人間のあり方・生き方」に対する考えをとらえよう。			
展	3 音読	3 音読をする。	範読
	4 庵の主人の生活を把握する	4 筆者の目に映ったものを確認し主の生活の様子をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、生徒の言葉に補足してまとめの言葉を加える。

<p>開 33 分</p>	<p>5 筆者の考えの把握</p> <p>6 筆者の「あはれ」を感じる生き方や生活の把握</p>	<p>苔の細道 いほり 木の葉 かけひ あか棚 折り散らかした菊紅葉 = 寂しい生活(人) 孤独な生活(人) 静かな生活(人) 風流な生活(人) = (普通とは違う生活)</p> <p>5 「ことさめ」た理由から筆者の考えをつかむ。 (1)「あはれに見る」の心情の理解 「かくてもあられけるよ」 = いい生活 「あはれにみる」 = しみじみと見る = 心ひかれて見る (2)「ことさめて」にこめられた心情の理解 「囲い」があった 「囲い」をした主人 = 物欲 独占欲 敵がい心 = 普通の人だった</p> <p>6 「この囲いなからましかば」にできなかった理由を考える。 木(物)があれば、心を奪われる。 木(物)があっても、心を奪われないのは難しい。 = 木(物)がなければ心も奪われない = 物事に心をとらわれない、安らかな生活</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「あはれに見る」筆者の心情をつかんだか。 【読む】</p> </div> <p>・ 「枕草子」の「あはれ」の意味を想起させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ことさめた」筆者の心情を理解することができたか。 【読む】</p> </div> <p>人間をいとおしむ筆者自身の人柄の表れを補足説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>筆者の考えを理解することができたか。 【読む】</p> </div>
<p>終 末</p> <p>7 分</p>	<p>7 学習内容のまとめ</p> <p>8 次時の内容の確認</p>	<p>7 兼好の考えについての感想を発表する。</p> <p>8 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・ 生徒の感想を聴き、定着度をつかむ。</p>